

# 病害虫発生予察情報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病	多い	—	果樹	りんご	リンゴゴブアブラムシ	並	やや早い	
	ピシウムによる苗立枯病	少ない	—		りんご	カイガラムシ類	多い	やや早い	
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害	並	—		日本なし	黒星病	少ない	並	
	褐条病による苗立枯性病害	並	—			カイガラムシ類	多い	やや早い	
	ばか苗病	並	—			ニセナシサビダニ	多い	やや早い	
		並	—			ハマキムシ類	多い	やや早い	
大麦	雲形病	並	—	ぶどう	黒とう病	少ない	並		
	うどんこ病	並	—		晩腐病	少ない	並		
	赤かび病	並	並	かき(三社)	フジコナカイガラムシ	並	やや早い		
野菜	タマネギ	べと病	やや多い	やや早い	もも	せん孔細菌病	やや多い	並	
						カイガラムシ類	多い	やや早い	
果樹	りんご	黒星病	少ない	並	花き球根	チューリップ	褐色斑点病	やや多い	やや遅い
		褐斑病	多い	並			モザイク病	並	—
		うどんこ病	少ない	並			アブラムシ類	やや多い	やや遅い
		ハダニ類	多い	やや早い					

<p><b>発生量</b></p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p><b>予報時期</b></p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(—) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

# I 水 稲

## 1 トリコデルマ、リゾープス、フザリウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（多湿、ハウス昼間温度 25℃以上を避ける）に留意し健苗育成に努める。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：16～17 ページ参照



図1 トリコデルマ菌罹病苗

## 2 ピシウムによる苗立枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・ 育苗資材の衛生管理と育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（5℃以下にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：18 ページ参照



図2 ピシウム菌罹病苗

## 3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・ 種子消毒が徹底されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・ 種子の比重選を実施する。
  - ・ 種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
  - ・ 催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。
  - ・ 出芽期の温度は30℃、緑化期以降は25℃以上とならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
  - ・ もみ枯細菌病は有機物含量の高い軽量培土を使用することにより発病を抑制できる。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：11～19 ページ参照



図3 もみ枯細菌病によって枯死した苗

## 4 褐条病による苗立枯性病害

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・種子消毒が徹底されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
  - ・催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。
  - ・出芽期の温度は30℃、緑化期以降は25℃以上にならないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
  - ・防除指針（令和6年度）：11～19 ページ参照



図4 褐条病に罹病した苗

## 5 ばか苗病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・種子消毒が徹底されている。(－)
  - ・県内産種子による更新率が高い。(－)
- (3) 防除対策
  - ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
  - ・種子消毒を徹底する。温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守し、催芽前または催芽時に食酢処理や生物農薬を併用し防除効果を高める。
  - ・催芽は蒸気式又は風呂場で行い、循環式催芽器は使用しない。
  - ・防除指針（令和6年度）：11～16 ページ参照



図5 ばか苗病によって徒長した苗

## II 大 麦

### 1 雲形病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・種子更新がされている。(－)
  - ・4月の降水量は平年並と予想されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・排水対策を徹底する。
  - ・防除指針（令和6年度）：51ページ参照



図6 雲形病罹病株

## 2 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 3月10日調査では発生は認められなかった（発病度の平年値0.1）。（－）
  - ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 発生初期に薬剤による防除を実施する。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：50ページ参照

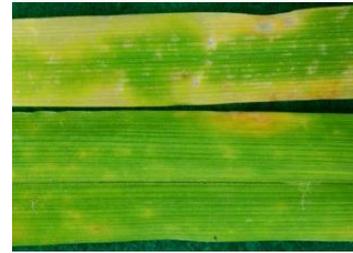


図7 うどんこ病罹病葉

## 3 赤かび病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。（±）
  - ・ 4月の降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 開花時に曇雨天が続くと多発生することから、降雨が続く場合でも雨の晴れ間をみて穂揃期とその7日後の2回の防除を確実に実施する。特に1回目の防除は、可能な限り液剤による防除を行う。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：51ページ参照

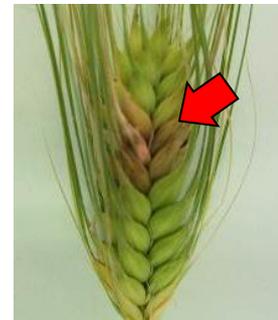


図8 赤かび病罹病穂

## Ⅲ 野菜

### 1 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・ 定植後の前年10～11月の平均気温は15.7℃で平年(14.1℃)より高かった。（＋）
  - ・ 前年12月～本年2月までの気温の平均は3.8℃で平年(4.1℃)よりやや低かった。（－）
  - ・ 3～4月の気温は平年並か高いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
- ・ 春先に越冬罹病株に形成された分生孢子によって二次感染が起きる。越冬罹病株の抜き取りを行うとともに、3月中旬～4月上旬の初発直前に治療効果のある薬剤を散布する。
  - ・ 防除指針（令和6年度）：102ページ参照



図9 べと病越冬罹病株

## IV 果樹

### 1 りんごの黒星病

(1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)



図10 黒星病の初期病斑（左）  
と進行した病斑（右）

(3) 防除対策

- ・開花直前及び落花直後は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないこと、開花期間中に実施しないことに注意し、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月19日、開花盛期は4月23日である。
- ・防除指針（令和6年度）：134、137～138、142～143 ページ参照

### 2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：多い  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(＋)
- ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)



図11 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

(3) 防除対策

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。
- ・防除指針（令和6年度）：134、136～138、142～143 ページ参照

### 3 りんごのうどんこ病

(1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)



図12 うどんこ病のり病葉

(3) 防除対策

- ・被害枝、花そう、葉は見つけ次第せん除し、園地外に持ち出す。
- ・防除指針（令和6年度）：134、137～138、142～143 ページ参照

## 4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容            発 生 量：**多い**  
                              発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

- (3) 防除対策
- ・スプレーオイル（25～50倍）を発芽前に散布する。
- なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月23日である。
- ・越冬密度を下げるため、粗皮削りを行う。
  - ・防除指針（令和6年度）：134、139、141～142、144～145 ページ参照

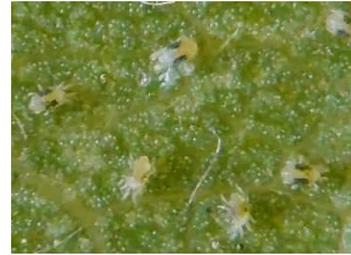


図13 ナミハダニの成虫

## 5 りんごのリンゴコブアブラムシ

- (1) 予報内容            発 生 量：**並**  
                              発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

- (3) 防除対策
- ・発生が多い園地では、ウララ DF（2,000～4,000倍）を散布する。
  - ・防除指針（令和6年度）：134、140、143～144 ページ参照



図14 アブラムシ類による被害葉

## 6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容            発 生 量：**多い**  
                              発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は多かった。(＋)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

- (3) 防除対策
- ・スプレーオイル（25～50倍）又はトモノールS（25～50倍）を発芽前に散布する。
- なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽期は3月23日である。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
  - ・防除指針（令和6年度）：134、140～141、143～145 ページ参照



図15 ナシマルカイガラムシ寄生枝

## 7 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・前年の秋型病斑葉率はやや少なかった。(－)
- ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・園地内に残っている落葉は伝染源となるので、落葉処理（園地外での処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリによるすき込み等）の見直しを行う。  
なお、処理は子のう胞子の飛散が始まる3月下旬までには完了する。
- ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園地外で処分する。
- ・開花直前及び落花直後は最重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月15日、開花盛期は4月17日である。
- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに合わせて防除を実施する。
- ・防除指針（令和6年度）：146、148～151、154 ページ参照



図16 黒星病の芽基部病斑（左）と春型病斑葉（右）

## 8 日本なしのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い  
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(＋)
- ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

(3) 防除対策

- ・マシン油乳剤を発芽前に散布する。
- ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
- ・防除指針（令和6年度）：146、148、151～152、155～156 ページ参照



図17 ナシマルカイガラムシ寄生枝

## 9 日本なしのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**  
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

- (3) 防除対策
- ・前年発生が多かった園地ではクムラス（300倍）を散布する。なお、カイガラムシ類対策としてマシン油乳剤の散布を行う際は14日以上間隔を空け、近接散布を避ける。
  - ・防除指針（令和6年度）：146、148、153、155ページ参照



図18 ニセナシサビダニによる被害葉

## 10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**  
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年よりやや多かった。(＋)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)

- (3) 防除対策
- ・防除適期はりんぼう脱落期である。防除が遅れると花蕾の食害が発生するので、生育状況を確認し、確実に防除を実施する。
  - ・防除指針（令和6年度）：146、151、155～156 ページ参照



図19 ハマキムシ類による被害花そう

## 11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**  
発生時期：**並**

- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
  - ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)

- (3) 防除対策
- ・被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）は除去し、園地外に持ち出す。
  - ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の発芽期は露地栽培の「巨峰」及び「シャインマスカット」で4月13日である。
  - ・「シャインマスカット」は本病にり病しやすいため、発生防止に有効なデランフロアブル（200倍）を発芽前に必ず散布する。
  - ・防除指針（令和6年度）：157、159～161ページ参照



図20 黒とう病の病斑（左）とり病果（右）

## 12 ぶどうの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
  - ・4月の降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・被害枝、棚線に残っている巻きづるや穂軸基部（前年のなり跡部）を除去し、園地外に持ち出す。
  - ・発芽前及び発芽直前は重要防除時期なので、適期防除に努める。なお、果樹研究センターにおける平年の発芽期は露地栽培の「巨峰」及び「シャインマスカット」で4月13日である。
  - ・防除指針（令和6年度）：157、159～161ページ参照



図21 晩腐病のり病果

## 13 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。（－）
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。（＋、早発）
- (3) 防除対策
- ・前年に発生の多かった園地や発生が懸念される園地では、粗皮削りを行うとともに、発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。また、前年の発生が多かった園地では4月下旬にアプロード水和剤（1,000倍）を散布する。
  - ・防除指針（令和6年度）：163～164、166～167ページ参照

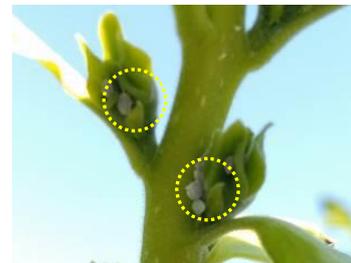


図22 フジコナカイガラムシの雌成虫

## 14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。（＋）
  - ・4月の降水量は平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・前年の発生が多い園地では防風対策を行う。
  - ・春型枝病斑や枯死した枝は見つけ次第せん除する。
  - ・4月は初期の予防に重要な時期なので、開花直前防除以降、散布間隔が開きすぎないように注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月6日、開花盛期は4月9日である。
  - ・防除指針（令和6年度）：168、170、172ページ参照



図23 せん孔細菌病の春型病斑枝

## 15 もものカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**  
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
  - ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)



図24 カイガラムシ寄生枝（左）と被害果（右）

- (3) 防除対策
- ・マシン油乳剤を発芽前に散布する。
  - ・多発樹では、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす。
  - ・防除指針（令和6年度）：168～170、172 ページ参照

## IV 花き・球根

### 1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
発生時期：**やや遅い**
- (2) 予報の根拠
- ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・4月の降水量は平年並と予想されている。(±)
  - ・生育が平年よりやや遅い。(遅発)



図25 褐色斑点病の小型病斑（左）と大型病斑（右）

- (3) 防除対策
- ・萌芽期から発病株を抜き取り、殺菌剤を定期散布し、摘花直後の散布を徹底する。
  - ・防除指針：（令和6年度）186 ページ参照

### 2 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年のアブラムシ類の飛来量は平年並だった。(±)
- (3) 防除対策
- ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
  - ・防除指針：（令和6年度）187 ページ参照



図26 萌芽期・展葉期のモザイク症状



図27 チューリップモザイクウイルス (TuIMV) のウイルス感染株（左）と健全株（右）



図28 ユリ潜在ウイルス (LSV) のウイルス感染株（左）と健全株（右）

### 3 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容            発 生 量：やや多い  
                             発生時期：やや遅い
- (2) 予報の根拠
- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・ 冬季の積雪日数が平年より多かった。(遅発)
- (3) 防除対策
- ・ モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
  - ・ ほ場周辺の除草を行う。
  - ・ 防除指針：(令和6年度)187ページ参照



図 29 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

## ～農薬危害防止～

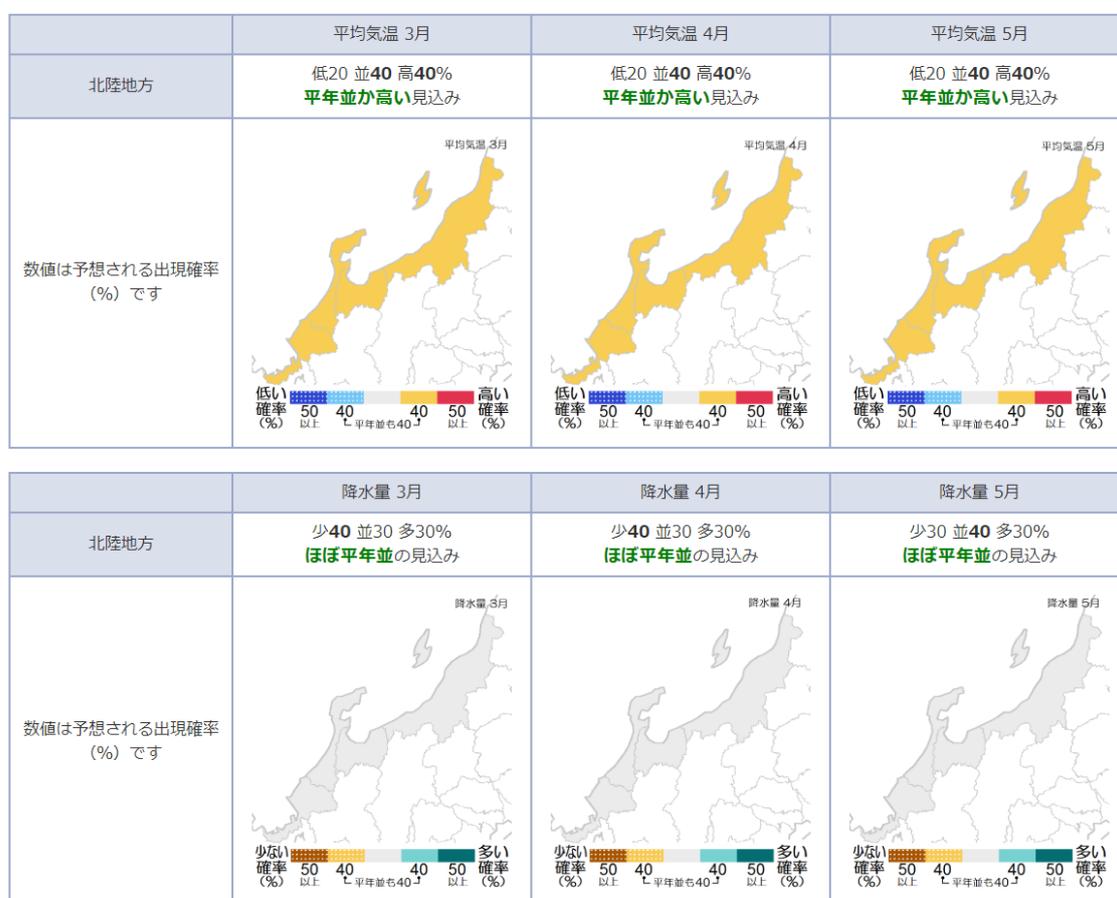
- 1 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする
- 2 周辺への配慮を→散布前の事前周知と農薬の飛散防止に努める
- 3 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用

北陸地方 3か月予報

2月25日  
新潟地方气象台 発表

<向こう3か月の天候の見通し>

・寒気の影響を受けにくいいため、向こう3か月の気温は平年並か高いでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
TEL 076-429-5249  
FAX 076-429-7974  
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

